

平成23年度第1回広島県公立大学法人評価委員会議事要旨

- 1 日 時 平成23年7月13日(水) 13:30~15:50
- 2 場 所 広島県庁南館 選挙管理委員会委員室
- 3 出席委員 高橋委員長, 古賀委員, 葛原委員, 福田委員
- 4 議 題 (1) 平成22年度業務実績報告及び財務諸表について
(2) 平成22年度業務実績評価素案について
(3) 平成22年度財務諸表及び利益処分に関する意見について
- 5 担当部署 広島県環境県民局学事課大学管理グループ
TEL (082) 228-2111 (内線2752)
- 6 会議の内容

(1) 平成22年度業務実績報告及び財務諸表について

広島県公立大学法人県立広島大学(以下「県大」という。)理事長から平成22年度の業務実績について、次のとおり報告があった。

- ① 県内の高校卒業生が減少する中、県大の志願者数は生命環境学部を中心に伸びており、中途退学率も低い。
- ② 県大が開学して2年目で現代GPが2件採択され、弾みがつき、応募できるものは応募しており、フォローアップも着実にやっている。
- ③ 県大の大きな特徴のひとつとして、卒業論文の全学部全学生必須があり、課題を見つけ、文献を探し、まとめて文章にし、プレゼンテーションする力が養われている。
- ④ 蔵書数は公立大学の中では多く、学生一人当たりの借り出し冊数はかなり高い。
- ⑤ 国際ボランティアとして、毎年2名程度派遣しているが、3~4名にしたいと考えている。
- ⑥ クラブ参加率は全学的には高いが、広島キャンパスは低めである。
- ⑦ 平成22年度の就職率は97.5%となっており、就職がまだ決まっていない学生は今後もフォローしていく。
- ⑧ 国際交流は、公立大学としては、比較的多い。
- ⑨ 科学研究費の獲得は、中四国九州の公立大学で、4年連続件数がトップとなった。
教員数の中で、科研費を取れる人の割合は、28%となっている。
- ⑩ 地域貢献については、様々なところと協定を締結し、公開講座も多く行っており、地域貢献ランキングは11位となっている。

県大総務担当部長から平成22年度財務諸表について、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書及び行政サービス実施コスト計算書、利益処分に関する書類(案)について内容説明があった。

その中で、次の2点について報告があった。

○会計監査人の監査報告については、適正との意見を文書で提出を受けたが、口頭において、学内LANリース料を前倒し返済し、支払い総額が減額されていないことは、経済的合理性に欠ける面があるのでは、との感があるとの意見があった。

○昨年度減損の兆候があるとされた件について、ゲストハウスは解消されており、牧草地は、今後研究助成事業を受ける予定で、減損の断定には至っていないと判断された。

【質疑応答】

・会計監査人からの口頭でのコメントについて、監査時の議事録とマネジメントレターを確認したい。

(県大回答)

⇒議事録は、すぐお渡しできるが、マネジメントレターはまだ会計監査人から提出を受けていないため、提出を受けたらお渡しする。

・科研費における県大の採択率は、大きな成果と感じている。かなりがんばっていると思うので、持続発展可能な努力をしていただきたい。

また、県大の成果を、県民の方にどういう形で広報しているのか。

(事務局回答)

⇒評価結果を議会に報告し、また、県ホームページに掲載している。

(県大回答)

⇒県大のホームページにも掲載している。また、大学説明会、オープンキャンパスにおいても、高校生保護者の方に説明している。広報については、今後戦略的な取り組みを検討していく。

・行政サービスのコストとして、41億円という数字があったが、県にとって決して小さな額でないため、県民に説明できるような形にしておく必要がある。

・広報は、積極的なPRと、不祥事等のネガティブな広報があり、両方に配慮する必要がある。

(県大回答)

⇒昨年度、学生に不祥事があった際、早く、的確に対応でき、法人化のメリットだと感じた。

・公開講座の数も非常に多くなっているが、量を追い求めると先生方も大変ではないか。

(県大回答)

⇒教員の事務負担があまりないよう改善する。

・就職率は全体に高いが、生命科学科が低下傾向にあるようだがなぜか。

(県大回答)

⇒人気のある学科だが、就職活動は、高速バスで大阪・東京へ行くため、費用がかかる。

また、定員が多いため、景気が悪くなると影響を受けることがある。

・大学院の就職状況はどうか。

(県大回答)

⇒大学院は、社会人や博士後期課程で他の大学へ行く学生が多いが、卒業後は概ね就職できている。

(2) 平成22年度業務実績評価素案について

事務局から、資料1により説明があり、全体評価としては「年度計画は順調に実施された」と判断されるとの素案が示された。委員からは次のとおり意見が出された。

【委員意見】

- ・現在は、中期計画の項目が非常に多い。

- ・項目の内容については、形式的な部分があるため、この次の中期計画では、もう少し実質的に、現場をみるとか、学生の話聞くなどしながら評価をしていく必要がある。

- ・認証評価機関の評価が今年度実施されるが、地方独立行政法人法上、その結果を踏まえて、平成25年度に総括評価をすることとなっている。その点を考慮にいれながら、今後評価を行う必要がある。

(3) 平成22年度財務諸表及び利益処分に関する意見について

事務局から、資料2により、県大が提出した財務諸表について事務局が行った確認内容の説明があった。合规性の遵守の観点及び表示の適正性の観点から財務諸表の確認を行い、適正な内容であったとの報告がなされた。委員からは次のとおり意見が出された。

【委員意見】

- ・会計監査人からコメントがでていた件に関しては、事務局で対応案を作成し、今後検討を行う。

- ・目的積立金の活用方法については、十分に考える必要があるが、例えば三原キャンパスの附属医療センターをどのように取り扱っていくのか。プロフィットセンターがコストセンターになってくることはあり得ることである。

7 会議の資料名一覧

【配付資料】

資料1 平成22事業年度公立大学法人県立広島大学業務の実績に関する評価結果
(素案)

資料2 財務諸表の事務局における確認について

資料3 剰余金のうち中期計画に定める用途に充てられる額の承認申請書

参考資料1 平成22年度業務の実績に関する報告書

参考資料2 平成22年度業務実績報告附属資料

参考資料3 平成22年度財務諸表

参考資料4 監事・会計監査法人の監査報告書

参考資料5 目的積立金の活用状況について